

わたしたちにできること

WITH コロナ②

～情報提供と園の対応～
2020.8.24時点



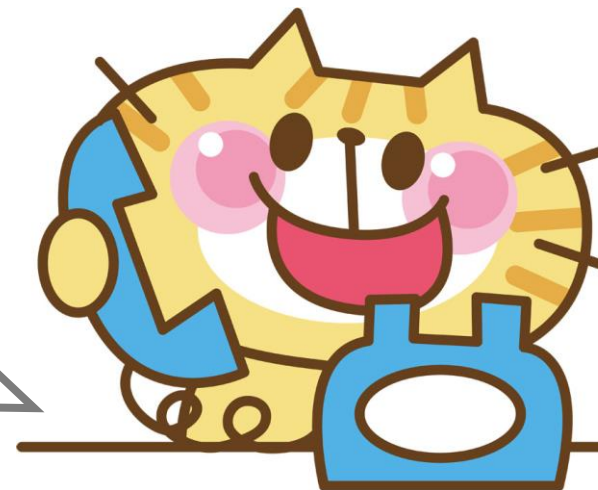
認定こども園 柱本保育園
こども未来学舎

新型コロナウイルスの疑いがあるとき

保健所

園

に必ず連絡を！



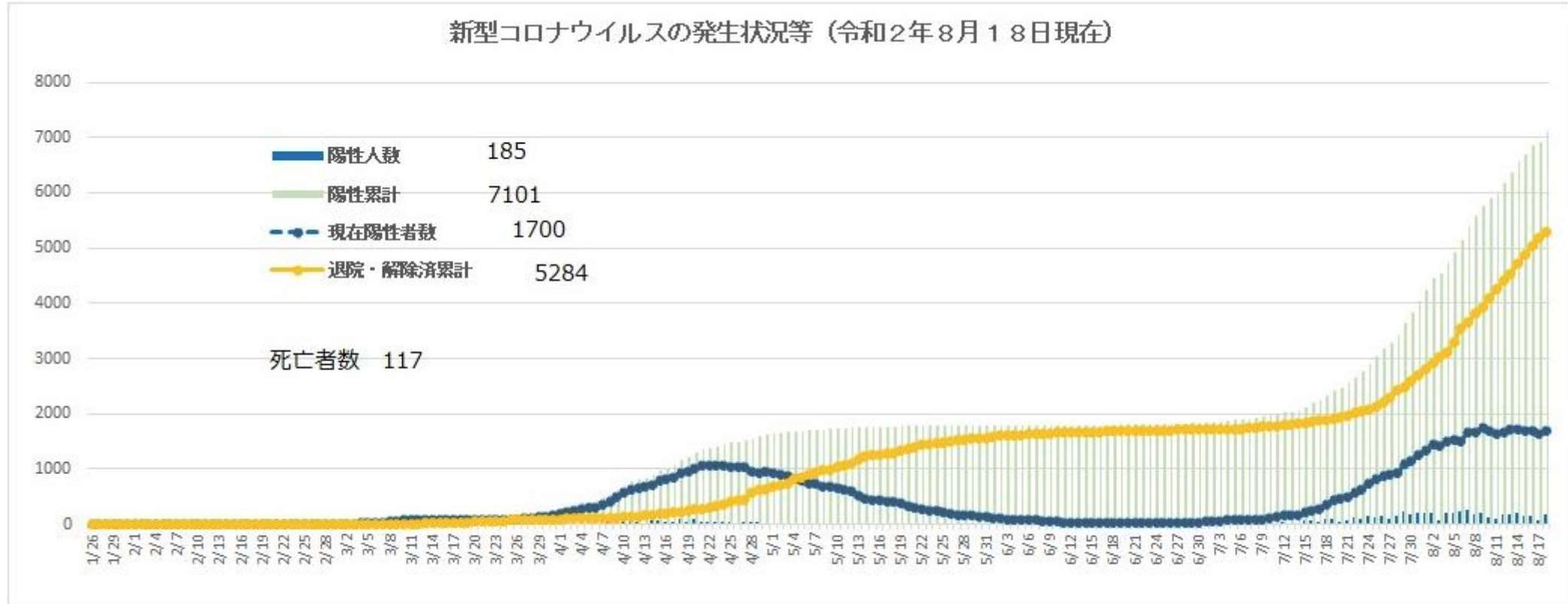
他の保護者に対しての周知について

個人情報に十分に配慮し

休園予定期間・園の体制等について情報提供を行います

※休園中、園から各家庭の**健康状況など確認の連絡**をさせていただくことがあります

大阪府の感染状況



【府民の皆様へのお願い】 感染拡大防止に向けた取組み（外出・イベントの開催・施設の使用・学校等について）

イエローステージ（警戒）の対応方針に基づく要請

別添参考資料1

- ① 区域 大阪府全域
- ② 期間 イエローステージ2の期間（8月21日～8月31日）
- ③ 実施内容（特措法第24条第9項に基づく）

●府民への呼びかけ

➤ 府民に対し、次の内容を要請。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 高齢者の方2 高齢者と日常的に接する家族3 高齢者施設・医療機関等の職員 | は、感染リスクの高い環境を避け、
少しでも症状が有る場合、早めに検査を受診すること |
|--|--|

- ・ 5人以上の宴会・飲み会は控えること
- ・ 3密で唾液が飛び交う環境を避けること
- ・ 業種別ガイドラインを遵守（感染防止宣言ステッカーの導入）していない、接待を伴う飲食店及び酒類の提供を行う飲食店の利用を自粛すること

1

【大阪府HP】 <http://www.pref.osaka.lg.jp/kikaku/corona-kinkyuzitai/index.html>

「学校の新しい生活様式」の改訂をうけて

『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
～「学校の新しい生活様式」～ver.3 2020.8.6』

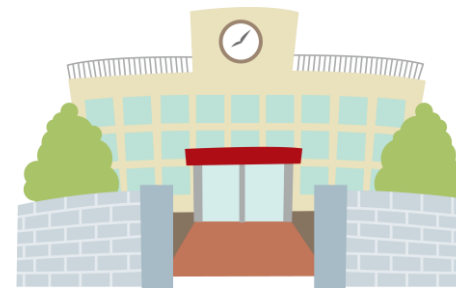
主な改定箇所

- ①データや分析の追加
- ②施設の清掃、消毒等についての追加
- ③気温が高い日のマスクの着用について
- ④感染拡大時の臨時休業等の判断基準などについて

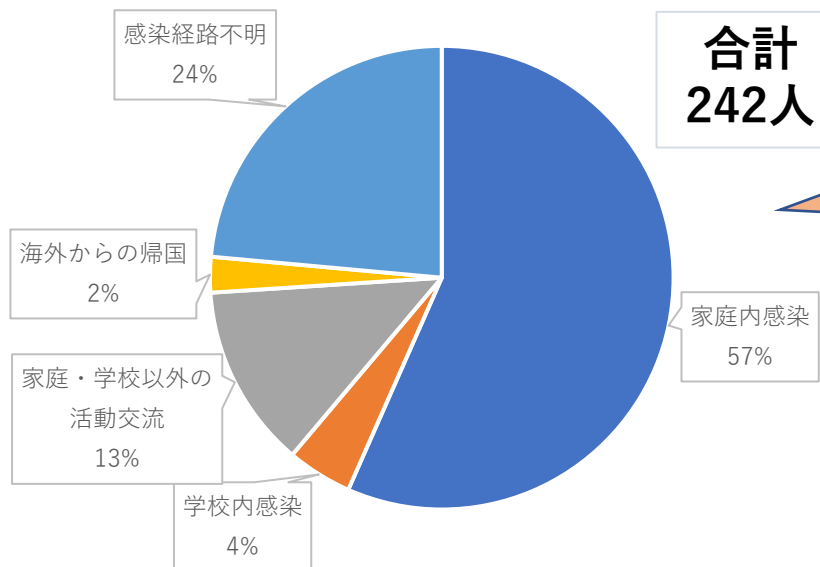
確認!



①-1.児童生徒・教職員の感染状況

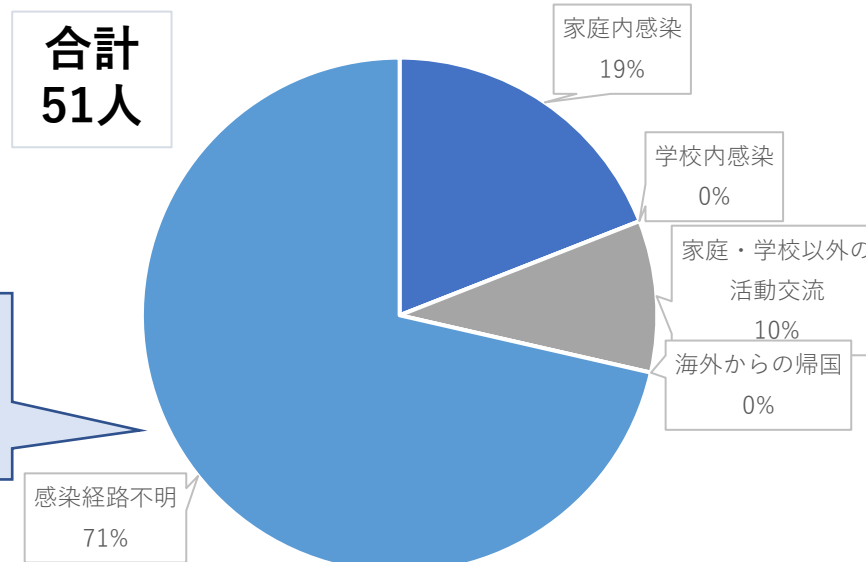


児童生徒の感染状況（小中高特別支援）



242人中、122人が無症状
感染経路は「家庭内感染」が半数以上である 57%

教職員の感染状況（小中高特別支援）



感染経路は、「不明」が 69%（51人中 35人）であり、「学校内感染」と報告された事例は確認されていません。

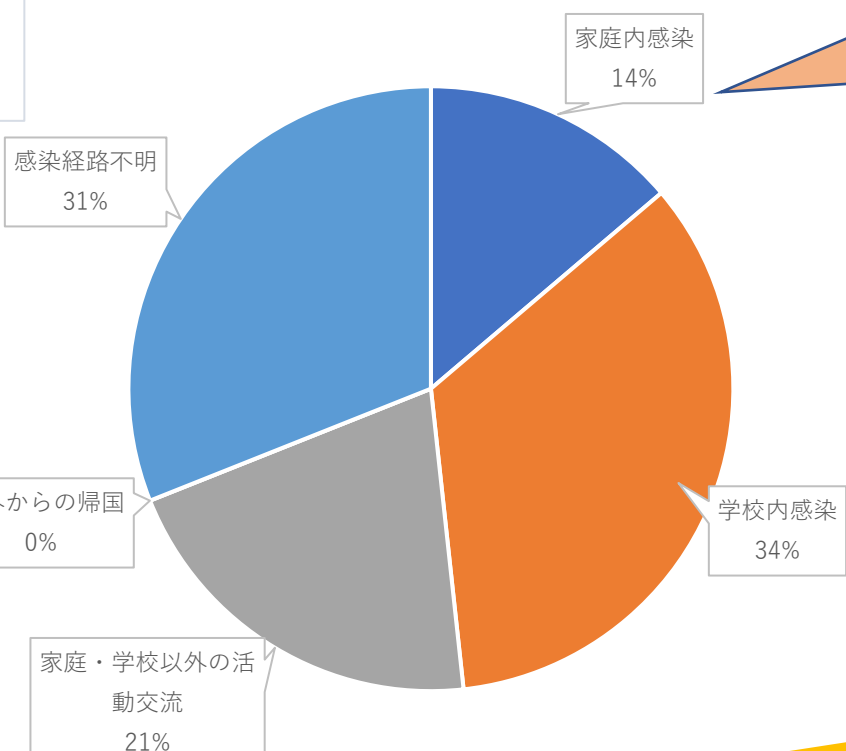
①-2. 幼稚園関係者の感染状況 年齢階級別陽性者・死亡者数



幼稚園の幼児及び教職員の感染状況

幼稚園については、幼児 16 人、教職員 13 人の感染の報告がありました。

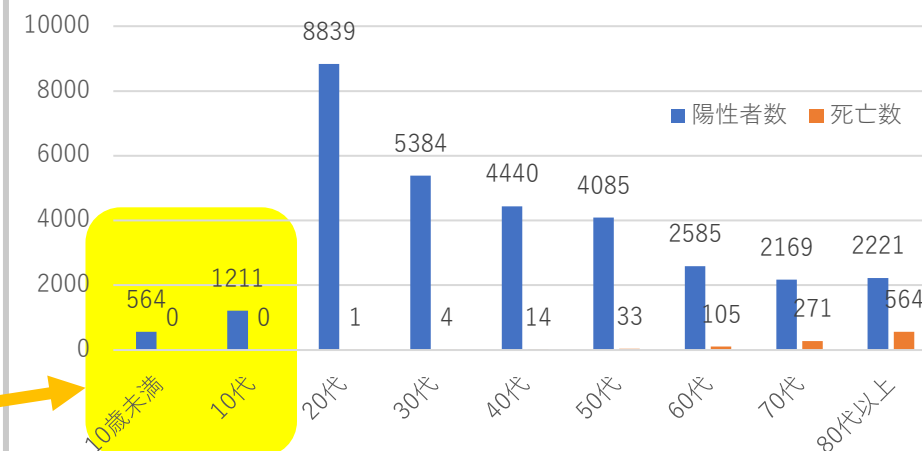
合計
29人



新型コロナウイルス感染症の国内発生動向

令和2年7月29日18時時点

年齢階級別陽性者数・死亡者数



10歳未満及び10代では、罹患率が他の年代と比べ低くなっておりこれらの年代での発症割合、重症割合ともに小さいとされています

①-3.米ジョージア州サマーキャンプの例

(米疾病対策センター 7月31日発表)

海外では感染症対策が不十分であったサマーキャンプで
小中学校の年代に相当する子供の間での集団感染が確認

参加条件

ウイルス検査で陰性の人のみ (到着前12日以内)

スタッフのみが布マスク着用義務

(消毒、少人数、ソーシャルディスタンスの
予防措置は行っていた)



597人中260人の感染
(最低限の数)

キャンプ参加者の年齢は6~19歳

(こどもはマスクを着けていなかった)

①-3.米ジョージア州サマーキャンプの例

(米疾病対策センター 7月31日発表)

こどもだからといって
感染しないわけではない

アメリカ疾病予防管理センター (CDC)

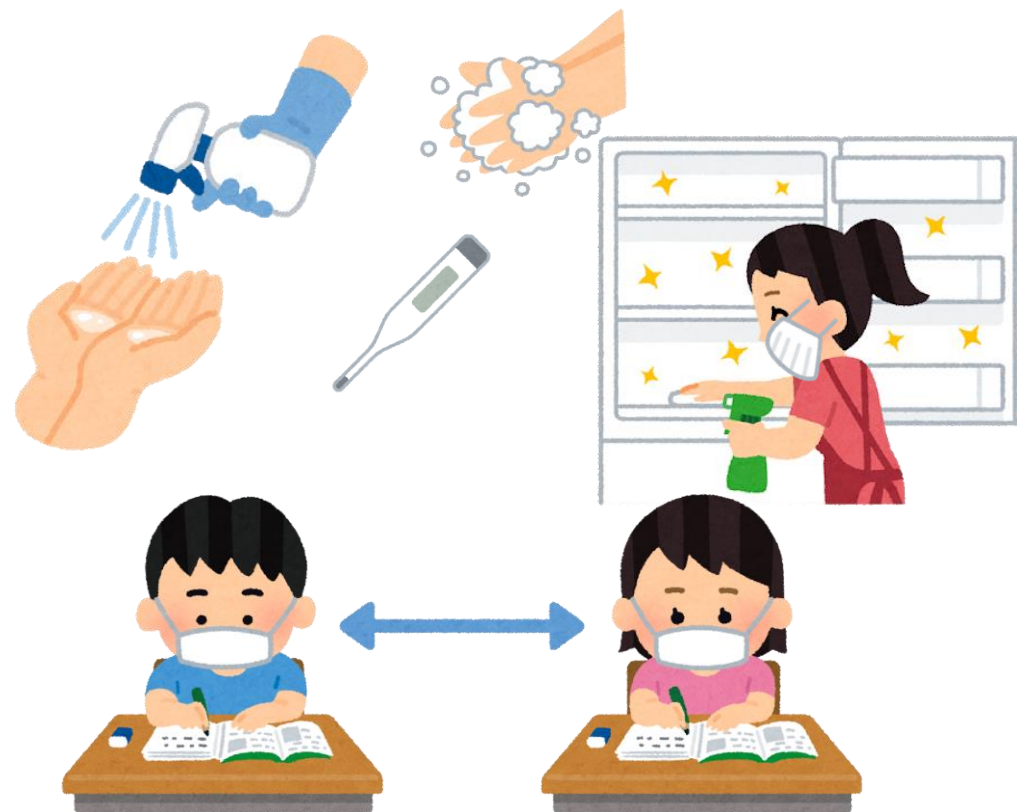
「全年齢の子どもが新型コロナウイルスに感染し得ること、また当初の情報とは裏腹に、伝染で重大な役割を果たすことを示す」新たな証拠となったと説明した



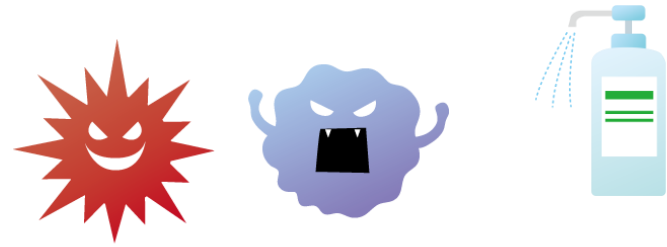
10歳未満・10代以上でも
適切な感染対策をすることが大事



「学校の新しい生活様式」は
感染拡大の抑制に



②ー1.清掃・消毒について



消毒は、感染源であるウイルスを死滅させ、減少させる効果はありますが、学校生活の中で消毒によりウイルスをすべて死滅させることは困難です。

このため、一時的な消毒の効果を期待するよりも、
清掃により清潔な空間を保ち

健康的な生活により児童生徒等の免疫力を高め
手洗いを徹底することの方が重要です。



②-2.集団感染のリスク要因について

感染拡大が起こりやすい環境

「**3密**」と「**大声**」の環境においては、「飛沫感染」や「接触感染」に加えて、「マイクロ飛沫感染」が起こりやすい

マイクロ飛沫感染とは

微細な飛沫である $5\mu\text{m}$ 未満の粒子が、換気の悪い密室等において空気中を漂い少し離れた距離や長い時間において感染が起こる感染経路

マイクロ飛沫感染とは？

(エアロゾル感染)

空気感染
漂い続ける



飛沫感染
すぐに落下

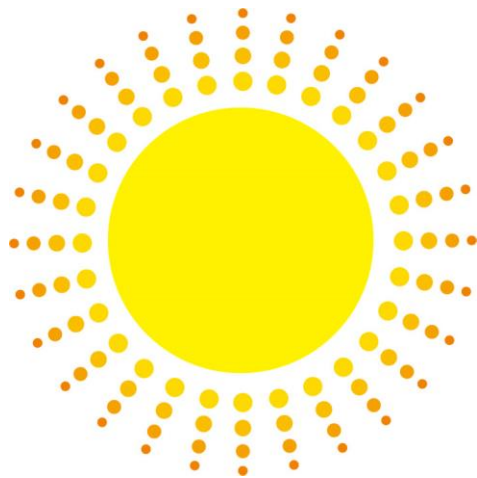
マイクロ飛沫感染

しばらく漂う
水蒸気などにウイルスが付着
飛沫よりも長く遠くへ

※一方で、屋外を歩いたり、感染対策のとられている店舗での買い物や食事
十分に換気された電車での通勤・通学で、「マイクロ飛沫感染」が起きる可能性は限定的と考えられる。

③ー1.マスクの着用について

身体的距離が十分とれないときは
マスクを着用しましょう



気温・湿度や暑さ指数（WBGT）12が高い日には
熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるときは、
マスクを外してください。

④ー1.感染がわかったときの対応について

児童生徒等や教職員の感染が判明した場合には、医療機関から本人（や保護者）に診断結果が伝えられるとともに、医療機関から保健所にも届出がなされます。

学校には、通常、本人（や保護者）から、感染が判明した旨の連絡がされることになります。

感染者の出席停止 : 経過観察による

濃厚接触者の出席停止 : 感染者と最後に濃厚接触をした日の翌日から起算して2週間

濃厚接触者の定義

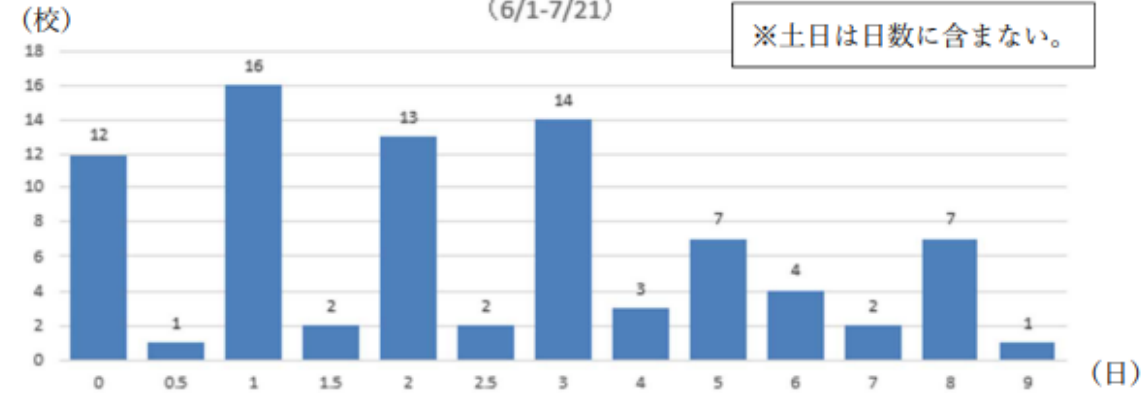
発症の2日前から1メートル以内で15分以上接触した人

④-2. 学校で感染者が発生した場合の臨時休業について

感染者が出た学校での学校全体の臨時休業実施状況(のべ84校)

(6/1-7/21)

※土日は日数に含まない。



感染者が発生した後、
1～3日の臨時休業を
実施した学校が多い

(参考) 児童生徒の感染が判明した際の臨時休業の実施例 (※実際の例)

<事例1>

小学生1名の陽性判定 (有症状・感染経路不明)。

→翌日から3日間、学校全体の臨時休業を実施。学校関係者では約40名のPCR検査を実施 (全員陰性判定)。

→4日目から学校を再開。

<事例2>

高校生1名の陽性判定 (無症状・家庭内感染)。

→翌日の1日間、学校全体の臨時休業を実施。学校関係者では3名のPCR検査を実施 (全員陰性判定)。

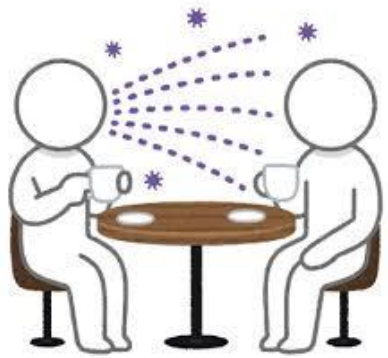
→2日目から学校を再開。

<事例3>

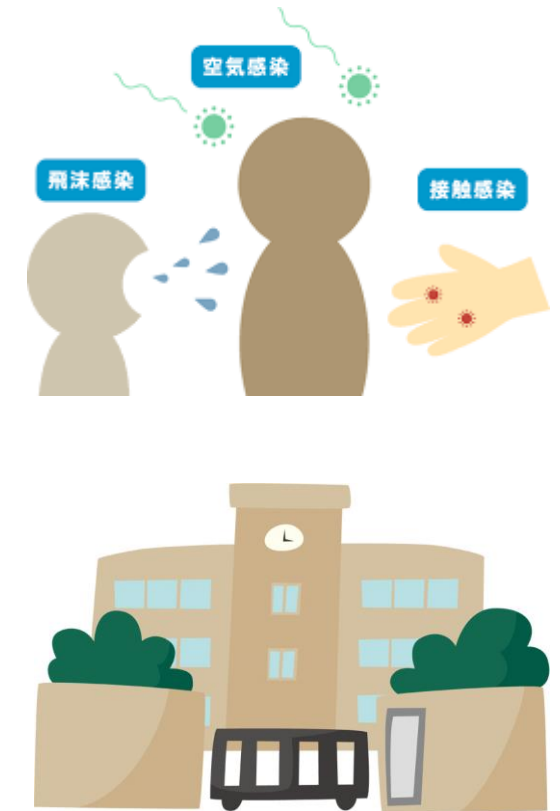
小学生1名の陽性判定 (無症状・家庭内感染)。

→保健所が、疫学的に学校内に濃厚接触者はいないと判断したため、臨時休業は行わず。必要箇所の消毒を行い、学校を継続。

④-3. 学校などの臨時休業の判断の基準



- ① 学校における活動の様態
- ② 接触者の多寡
- ③ 地域における感染拡大の状況
- ④ 感染経路の明否



これらの状況を総合的に判断し
休業の実施の基準とする

わたしたちにできること

新型コロナウイルス感染症という
見えない脅威に対して、
わたしたちはできることしかできません。
一人ひとりの行動に
“うつさない”“うつらない”
思いやりの気持ちを持って
できることをしっかりと行いましょう。



うちで、すごそう

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために

- 1 密集・密接・密室を避ける
- 2 帰省・旅行を控える
- 3 人が集まる行楽地に行かない
- 4 買物は少人数ですいている時間に
- 5 こまめに手を洗う



内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室

保護者の方へのおねがい

登降園の際は
保護者の方も

マスクの着用・消毒を
必ずお願いいたします。



家族に発熱、咳などの症状がある場合や

感染症が蔓延している地域では、児童等の登園を控えることも重要です。